

| | |
|-----------|-------------|
| 2014年度 後期 | リフレクションペーパー |
|-----------|-------------|

| | | | | | | | |
|-------------------|--|----------|-----|-----------|-------|-----|-----|
| 学科名 | 電気通信工学科 | | | | | | |
| 科目名 | 基礎ゼミⅡ(B) | | | | | | |
| 科目区分 | 人間形成科目 | 単位数 | 2 | 開講時期 | 1年次後期 | | |
| 必修・選択の別 | 選択(組込みシステムコース)/選択必修(電気エネルギーコース)/選択(情報システムコース) | | | | | | |
| 担当者 | 原谷 直実、江崎 秀、江上 典文、平野 剛 | | | | | | |
| 授業の到達目標(シラバスから) | <ul style="list-style-type: none"> ・電気電子情報通信工学分野の発展を知り、技術社会における位置づけを認識できる(A9) ・電気電子情報通信工学分野の技術発展に関する授業内容を要約し、提示された課題について追加調査できる(A4,A10) ・授業内容の要約と追加調査した内容について報告書を作成し、わかりやすく説明するとともに、課題や問題点を抽出できる(A4,A10,C1) ・電気電子情報通信工学分野の歴史と組込み技術の位置づけを知り、今後の発展を探ることができる(B6,C6,C7) | | | | | | |
| 日程と内容 | 第1回 : 09/16 : 自己点検 第2回 : 09/30 : チームの理解 第3回 : 10/07 : プロジェクト1 第4回 : 10/14 : プロジェクト1 第5回 : 10/21 : プロジェクト1 第6回 : 10/28 : プロジェクト2 第7回 : 11/04 : プロジェクト2 (要素技術) 第8回 : 11/11 : プロジェクト2 (工程表) 第9回 : 11/18 : プロジェクト2 (プレゼンテーション作成) 第10回 : 11/25 : プロジェクト2 (プレゼンテーション準備) 第11回 : 12/02 : プロジェクト2 (プレゼンテーション) 第12回 : 12/09 : プロジェクト2 (プレゼンテーション) 第13回 : 12/16 : ロジカルシンキング1 (問題抽出) 第14回 : 01/13 : ロジカルシンキング2 (問題解決) 第15回 : 01/20 : ロジカルシンキング3 (総括) | | | | | | |
| 成績評価基準 | 定期試験 | | | 実技 | 100% | | |
| | 臨時試験 | | | 部外評価 | | | |
| | 報告書・レポート | | | プレゼンテーション | | | |
| | 課題 | | | 計 | 100% | | |
| | 演習 | | | | | | |
| 授業到達目標の達成度 | ほとんどの学生が真面目に出席し、授業内容(実習)をよく成し遂げたので、合格したし、授業到達目標を達成したといえる。一部、欠席が多い学生、遅刻が多い学生については、成績評価も合格点に到達できなかった。 | | | | | | |
| 反省点 | 当初の授業目標(シラバス)の内容は、前期の「基礎ゼミⅠ」に変更し、「基礎ゼミⅡ」では、平成28年度カリキュラムから開講予定の「科学的問題解決法」に沿った内容を実施することにした。授業実施方法の詳細が未定のため、毎回の授業内容を受けて次の内容を決める結果となった。趣旨は、「チームワーク」を身につけることと、「ロジカルシンキング」の手法を身につけることであった。 | | | | | | |
| 来年度の計画 | 今年度の実施内容をもとに、来年度のシラバスを決めた。内容はほぼ同じだが、テーマの実施順序を変更した。 | | | | | | |
| 授業評価アンケートに対するコメント | 評価の低い項目について ・授業内容の理解: 3.9/授業の全体像を当初示すことができなかった点を反省する ・授業内容への興味: 3.7/チームで活動すること、能動的に行動することを求められるが、この点が受動的な受講態度に慣れている学生にとって、違和感があったかもしれない。 ・予習・復習: 3.5/本来、予習・復習はあまり求めないので評価は妥当。 | | | | | | |
| 履修登録者数 | 28名 | 定期試験受験者数 | 25名 | 合格者数 | 23名 | 合格率 | 92% |